

提案31 「住みたいまち」に暮らせる時代へ

もしも、自由に生活の場所を選べるとしたら…



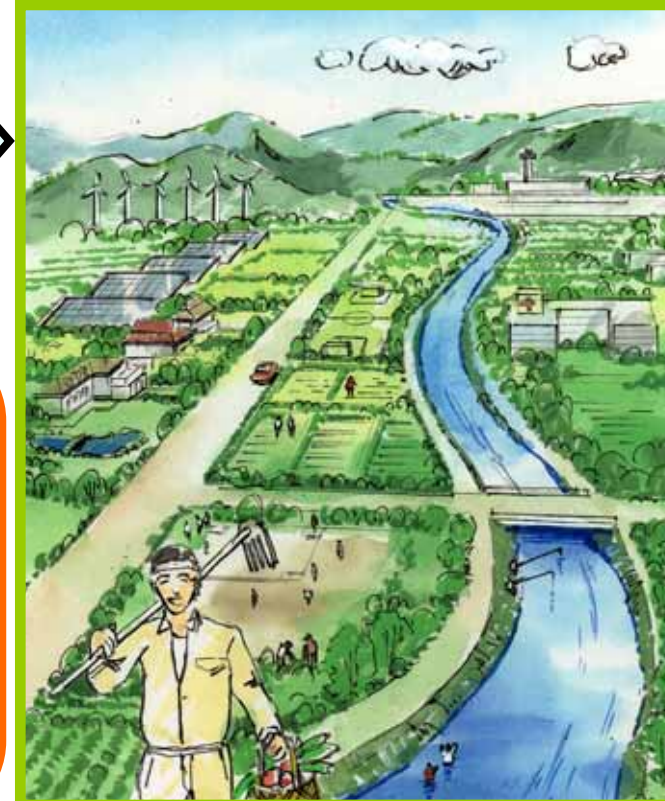
都市

(充実した都市機能で快適便利な生活を)



地方

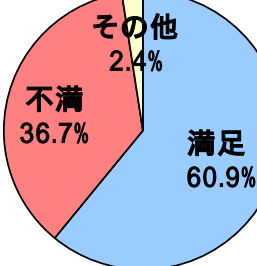
(豊かな自然との共生で環境重視の生活を)



あなたなら
どのように
暮らしますか？

現在の生活の満足度

約4割が
「不満」



内閣府
「国民生活に関する世論調査(H15.6)」より

提案の背景

「住みたいまち」に暮らせていない現実

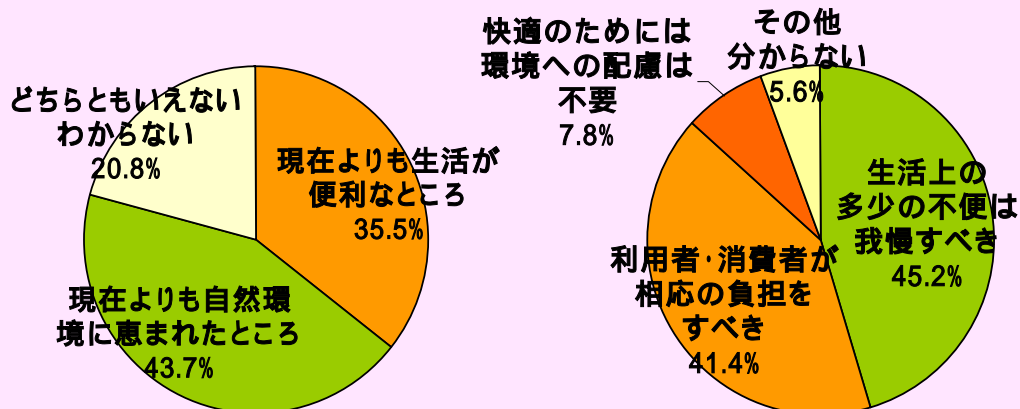
- ・ **仕事の制約** (仕事がないから都会へ 等)
- ・ **住環境の制約** (都心から離れた郊外へ 等)
- ・ **家族の制約** (面倒を見るから親元へ 等)
- ・ **その他**

100年後には・・・

「住みたいまち」を
自ら選択して
理想の生活を
送りたい

「住みたいまち」に対する志向の個人差

- ・ 理想の生活への志向は、「**便利**」と「**自然環境**」が半々
- ・ 環境に対する意識は、「**多少の不便は我慢**」と「**相応の費用負担**」が半々



(内閣府「国土の将来像に関する世論調査(H13.6)」より)

理想の生活を
実現するために
「**下水道**」には
何ができるのか？

提案の概要

都市：家庭から排出される全てを下水道システムで回収！

地方：下水道資源等を利用して環境保全と食料生産に貢献！

提案の効果

都市

- ・ 各家庭におけるごみの分別や収集日までの管理が不要
- ・ 集合処理による効率的な資源回収が可能
- ・ 資源循環利用の一元管理が可能



- ・ 現在、一世帯(平均2.2人)当り、約5kgのごみを家庭内で管理している計算。(試算より)
- ・ 市民一人当たりのごみ処理費の内、収集運搬費が約6割を占めている。(〇市実績)

地方

- ・ 「都市」で大量かつ安定的に発生する下水道資源の利用が可能
- ・ 広大な土地を利用した食料生産により自給自足生活が可能
- ・ 太陽光など自然エネルギーの利用による環境への貢献が可能

- ・ 処理水は農業用水として、汚泥は有機肥料として利用。
- ・ 人口密度250人/km²以下で食料自給率100%実現の可能性あり。(試算より)
- ・ 太陽光パネル約8.3m×8.3mで1名分の年間使用電力量を生産。(試算より)

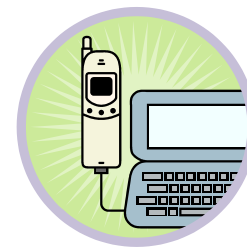


実現に向けて

- ・ IT技術の進歩による「職住」関係の希薄化
- ・ 都市と地方を結ぶ高速移動手段の確立
- ・ 環境意識の向上
- ・ etc...



さらに



(都市)

家庭内での利用資源の統合と回収技術の確立

- ・ 処理場での資源分離の効率化等を考慮して、同一目的での多種資源利用(例えば、ガラス瓶、ペットボトル、アルミ缶、プラスチック容器等)の現状改善
- ・ 下水道システムでの回収を可能にするための技術(破碎、圧縮等)の開発

分離技術の確立と循環利用供給先の確保

- ・ 処理場での効率的な資源分離技術(沈殿分離、遠心分離等)の開発
 - ・ 回収資源の循環利用に向けた、過不足のない需要と供給サイクルの構築
- 利便性享受・エネルギー使用量に応じた費用負担の義務化**

(地方)

**農業用水道としての処理水利用に向けた制度化や施設整備
環境への貢献度に応じた補助金などの負担軽減制度の確立**

**炭素税
環境税**



**制度化
必要**